

篠原房枝作 「誕生」

効果音 (街の雑踏)

効果音 (玄関で呼び出しブザー)

小嶋由紀 はい、どなた？

原田紀子 お姉ちゃん、わたしよ。

由紀 あ、紀ちゃん。今開けるわね。

効果音 (ドアの開閉の音)

ナレーション 原田紀子は、高校1年生。夏休みに入るのを待ちかねたように、嫁いだ姉の小嶋由紀の家を訪れました。姉は間もなく初めての出産を控えていました。

由紀 暑かったでしょ。さ、どうぞ。

紀子 お邪魔します。ねえ、お義兄さん(以下「兄」)はまだ帰らないの？

由紀 誠さん、今日は少し遅くなるんですって。それより、冷たいもの、麦茶でいい？

紀子 うん。あ、わたしがやる。お姉ちゃん、大事な体なんだから、座っててよ。

由紀 あら、まだ大丈夫よ、これくらい。

紀子 ダーメ。もしものことがあったら困るでしょ。それに、身重のお姉ちゃんが動いて、わたしが座っているの、誠兄さんに分かったら、わたしが怒られるんだもん。だから座っているの。

由紀 はいはい、分かりました。

紀子 あ、その包みね、お母さんから。果物だって。夏は普通の人でも体調を崩しやすいから、お姉ちゃんは、体があまり丈夫じゃない上、2人分栄養をとらなければならないからだって。ねえ、お姉ちゃんも、飲む？

由紀 ええ、ありがとう。

効果音 (包みを開ける音)

由紀 ワー、おいしそう。ねえ、紀ちゃんも食べない？

紀子 欲しいけど、要らない。

由紀 あら、どうして？ あなたらしくないじゃない。

紀子 だって、お母さんが「これは由紀姉さんと赤ちゃんのために持っていくんだから、紀子は食べてきたらダメですよ」って言ったんだもん。欲しいけど、要らない。

由紀 (おかしそうに) そう。それじゃ、紀ちゃんには、うちにある物 出してあげるわね。(間)それはそうと、紀ちゃん、教会に行っているの？

紀子 ううん。

由紀 あら、どうして？

紀子 だって、お姉ちゃんいないんだもの。

由紀 何言ってるの。わたしはこっちの教会に通ってるんだから仕方ないでしょ。それに知らない人ばかりというわけじゃないでしょ？ 牧師先生だって、高校生会の高橋さんだって、あなたのことよく知っているし、いつも祈ってくださってるのよ。わたしだって、毎日、誠さんと二人で、あなたのこと祈ってる。なぜ教会に行かなくなってしまったの？

紀子 「なぜ」って言われても困るけど…。なんだからよく分からないんだもの。

由紀 何がよく分からないの？

紀子 うん、あのね…。「神が示す道」とか、「神のみ心のままに」とか、教会って、クリスチャンって、なんでも神様任せで、主体性がないもののように思えるの。

由紀 そうなの。あのね、紀ちゃん…。

効果音 (呼び出しブザーの音)

由紀 はい。ちょっと待ってね。(間)(オフ)お帰りなさい。

誠 (オフ)ただいま。(間)お、紀ちゃん、来てたのか。

紀子 お兄さん。お帰りなさい。夕方からお邪魔してます。

誠 今日は、ゆっくりしていくんだらう？

由紀 誠さん、実はね、今、紀ちゃんの教会のことで…。

音楽 (ブリッジ)

誠 …そうか。うん、紀ちゃんの言ってることも分からないでもないが…。あのね、紀ちゃんはなんでこの世にいるんだい？

紀子 「なんで」って… 生まれたからよ。

誠 そうだ。それじゃ、なんで生まれたと思う？

紀子 「なんで生まれたか」？ えー…(間)お父さんとお母さんがいたから。

誠 うん。じゃ、どうしてお母さんの中に、紀ちゃんが宿ったんだらう。

紀子 え？

誠 この世の中には、結婚して、子供が欲しくても、赤ん坊が生まれない夫婦はいくらでもいるんだよ。そのことを考えると、紀ちゃんがこの世に生まれたのは偶然じゃないだらう。紀ちゃんがこの世に生まれて、やらなくてはならないことがあるから、命が授けられたんだよ。

紀子 「命が授けられた」？ だれに？

誠 神様にだよ。今、由紀のおなかの赤ん坊の命だって、神様が授けてくださったんだ。もちろん僕の命も、母親となる由紀の命もだよ。だから、本当に生きていくことの意味を知りたいと思ったら、僕たちの命は、どうして与えられたのか、何をするためにこの世に生まれたのか、神様に尋ねるんだよ。それが“み心を求めて祈り、神様のご計画に従って生きる”ということなんだ。神様が“こうするために”とお与えになった人生なのに、その人が違う方向に行くのは罪なんだよ。分かるかい？

紀子 うん。なんとなく…。

由紀 だからね、誠さんとわたしも、神様に与えられたこの小さな命を、この世に出さなければならぬ義務があるのよ。

紀ちゃん、もう一度教会に行ってごらんなさい。そしてね、うっ！(うめく)

紀子 お姉ちゃん！ どうしたの？

誠 お、おい、由紀、しっかりしろ。紀ちゃん、早く病院に電話！

紀子 うん。お姉ちゃん、しっかりしてね。

誠 由紀、大丈夫か？

効果音 (救急車のサイレン)

音楽 (ブリッジ)

紀子(モノローグ)(エコー)お姉ちゃん大丈夫かしら？ 赤ちゃんはどうなるの？

効果音 (ドアの閉じる音)

誠 あ、先生。由紀は、あの、妻はどんな具合なんでしょうか？

医師 小嶋さん。実は、あまり思わしくない容体なんです。胎児のほうも標準より少し小さいし、母体のほうはかなり弱い体質です。今はまだなんとも言えません。とにかく今夜一晩明けてみないと…。

誠 そうですか。あの、付き添っていていいでしょうか？

医師 ええ、結構ですよ。ただ、薬で眠っているので、朝までは目が覚めませんが。何かあったら、いつでも連絡してください。それじゃ、わたしはこれで。

誠 どうもありがとうございました。

紀子 お兄さん…。

誠 あ、紀ちゃん、どうしたの、泣き出しそうな顔して？ 心配しなくてもいいんだよ。

紀子 だって、お姉ちゃん、あんなに苦しそうなのに、赤ちゃんだって危ないのに、お兄さん、平気なの？

誠 大丈夫だよ、紀ちゃん。僕たちには、神様がおられんだから、きっとすべてを良くして下さる。

紀子 本当に？ お姉ちゃんも、赤ちゃんも守ってくれるかしら？

誠 (確信を持って) ああ。

ナレーション 紀子には、こんな時に少しも慌てないで、落ち着いている兄の姿が不思議でした。

誠 今日はずまなかったね。いろいろとありがとう。僕からも、お母さんに「よろしく」って伝えておいてくれ。それじゃ気をつけてね。お休み。

紀子 お休みなさい。

ナレーション 紀子は、苦しそうな姉の姿を思い出しては、胸の締め付けられるような思いで家に帰りました。しかし、あの憎らしいほどに毅然とした兄の誠が、その夜、まんじりともせず^{きぜん}に由紀のそばに付き添っていたことは、夢にも知りませんでした。

音楽 (ブリッジ)

ナレーション 翌朝、――

誠 やあ、目が覚めたかい？

由紀 誠さん、ゆうべからずっと？

誠 (うなづく)

由紀 ねえ、誠さん、先生、なんておっしゃっていたの？

誠 (間。思い切ったように) あかね、由紀。先生がおっしゃるには、かなり危険らしいんだ。

由紀 この子が?!

誠 赤ん坊も…、君もだって。

由紀 誠さん、祈りましょうよ。この子がわたしたちに与えられたことは、神様のみ心でしょう？ だから、きっと大丈夫よ。人の力ではないわ。神様のみ業を信じましょう。

誠 そうだね。じゃ由紀、祈るからね。(祈り) 神様、この時を感謝します。あなたのみ心を、み業を信じますから、どうか妻と、この小さな命をお守りください。このことを通して、あなたが生きて働かれることあかしくなるように導いてください。あなたのみ手にすべてをゆだねますから、この子を取り上げてくださる先生の上に、特別に力を与えてください。イエス様のみ名を通して、み前におさげいたします。(由紀と共に) アーメン。

効果音 (ドアをノックする音)

由紀 どうぞ。

効果音 (ドアの開閉の音)

誠 あ、紀ちゃん。(少し驚いて)お義父さん！(以下「父」)

父 やあ誠君。由紀、大丈夫かね？ いやあ、実はね、家内が今朝になって具合が悪くなってな。由紀が弱いのは、あれに似たんだなあ。

由紀 (苦しそうに)ま…誠さん。

誠 由紀！ 今 先生を呼ぶからな。

効果音 (看護師たちの慌ただしい音)

医師 (看護師たちに)早く分娩室へ。ご主人、いいですか。お子さんはあきらめてください。出ないと奥さんは助かりません。

誠 (きっぱりと)いえ、先生。赤ん坊を助けてください。神様に授かった命ですから。僕らには決してそれを奪う権利はないのです。たとえそのために妻の命が尽きたとしても、新しい命はこの世に出さなければならぬのです。妻も同じ意見です。

医師 (感動を隠して)分かりました。率直に言って、二人とも助かるという保証はできません。悪くすると、母体も胎児も危険です。ともかく、わたしも最善を尽くします。それじゃ。

誠 よろしく願います。

紀子 誠兄さん、お姉ちゃんが、赤ちゃんが死んじゃうの？ ああ、お父さん…。(泣く)

父 誠君…。

誠 お父さん、紀ちゃん、大丈夫ですよ。由紀には神様がついてます。僕たちは、ここで祈りましょう。

効果音 (時計の「カチカチ」時を刻む音)(間)(赤ちゃんの産声)(ドアの開く音)

誠 先生！

医師 (感動を抑えかねて)小嶋さん、奇跡です。親子とも助かりました。奥さんが信じられないくらい頑張ったのですよ。男の子です。本当におめでとう。

誠 ありがとうございます。先生の陰です。そして、神様のみ業です。

紀子 (感動して)お兄さん、本当に神様はいるのね。命は、与えられ、守られるものなのね。神様、ありがとうございます。本当にありがとうございました！

音楽 (高らかに)

<完>